

## ◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<6月> 業界の景況(前月比DI値)

晴れ間は無く、全体の景況は依然として厳しい状況である。  
消費税増税への不安が多く聞かれた。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。4545

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		平成31年3月	平成31年4月	令和元年5月	令和元年6月
製造業	食料品製造業	 △ 20	 △ 25	 0	 △ 40
	木材・木製品製造業	 0	 0	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 0	 0
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 0	 △ 33	 0
	鉄鋼・金属 同製造業	 0	 △ 50	 △ 50	 △ 33
非製造業	卸売業	 0	 △ 25	 △ 20	 △ 20
	小売業	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 50
	商店街	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	サービス業	 △ 17	 △ 33	 0	 △ 17
	建設業	 △ 20	 △ 17	 △ 17	 △ 17
	運輸業	 0	 0	 0	 △ 50
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	業界全体の出荷量は前月と変わらず伸びを欠いている。以前に開催された大手同業他社との会議の中で、金額に関係なく使いやすい商品を購入する消費者が多くいる一方で、経済的にお得感のある量目の多い味噌を購入する消費者も数多くいる。しかし、それらの動きが非常に落ち込んできているとの報告があった。業界と各メーカーが対策を怠ってきたことも大きな原因だが、購入量が減少する事は、1キロ当たりの原価が上昇し経営に大きなダメージを課すため、大変由々しき事態である。業界全体でもう一度この問題を再構築しなければならないと考える。
水産練製品業界	主原料を中心にコスト上昇が続いている。
酒造業界	夏場を迎えるため、仕込みは休みの期間に入り操業度は前月に比べ低下している。出荷状況は低調のままである。
製麺業界	景況は前月より改善しているが、厳しい状況が続いている。
木材業界	<p>県内の5月の住宅着工数は1,395戸で、前月比77%、前年同月比78%と貸家、分譲が大きく減少した。持ち家は、2月の337戸以来、今月の558戸まで戸建ての工事が右肩上がり増加となった。</p> <p>原木は4月以降、横ばいから値下がり傾向である。製品は、小口、当用買いが中心で、価格に大きな動きはない。合板の荷動きは活発になっているが、運送コスト等アップにより、小幅値上げとなった。バイオマス発電用のチップの引き合いが一層強くなっており、発電用バイオマス供給認定事業者も11事業者となった。</p>
生コンクリート業界	6月の生コンクリート出荷量は、前月より13.1%増加し、景況も横ばいではあるものの前月より改善した。地域別では石巻、気仙沼地区の復興関連で増加した。また、前年同月比では-2.9%となり、復興関連や官公民需要は減少となった。地域別では県北、大崎地区で官公民需要が減少した。
コンクリート製品業界	組合員の5月の出荷量は、前月比93%と落ち込んだ。前年同月比でも、80%と昨年の実績値を下回り、累計でも76%と昨年を下回った。(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れの報告です)
砕石業界	需給の変化は見られない。
機械金属業界	<p>組合員によって前月比の売上高・業界の景況にバラつきが見られる。</p> <p>前年同月比においては、全体的に減少・悪化傾向にある。</p>

機械金属業界	製造業関連の会員については、取引先の業績不振や設備投資の落ち着き等により、売上・収益ともに減少傾向にあり、厳しい状況が続いている。電気及び建築関係の事業に関連している会員企業については、比較的良好に推移している。
金属加工業界	直接的に海外と取引のある組合員はいないが、米中等の諸外国の問題が影響している。
再生資源業界	鉄スクラップの6月の価格は、5月の下落に引き続き大幅な下落となった。先月と同じく、米中の貿易摩擦に伴う中国経済の減速とともに、国内経済の減速傾向が要因となっている。 古紙価格はダンボール古紙、雑誌古紙が前月同様に大幅な値下げ傾向となった。中国の国内政策の変更により日本からの輸出が激減し（事実上ストップ）、日本国内に大幅な余剰感がでてきている。唯一新聞古紙のみは価格、需要とも堅調だが、ダンボール古紙、雑誌古紙は販売不振で古紙在庫が増加し、各古紙問屋の経営を圧迫している状況だ。
繊維業界	悪天候の影響もあり売上は前年比より減少している。早めの夏物展開は良かったが、6月中旬から動きが悪くなった。シニア向けサマー商品の動きは良かった。年2回の売出しも天候に左右される結果となった。
ゴム製品卸売業界	今月に入り、新年度事業の引き合いが多くなってきている。 消費税増税前に予算計上している分の前倒しや、ゴム・プラスチック業界の価格改定の影響もあり、早めの購入を検討しているようだ。
鮮魚卸売業界	6月に入り、販売量が昨年並みに推移している。観光客の入込状況も昨年と同様であった。本マグロの水揚げが始まり、マグロに関しては好調に推移している。
鮮魚小売業界	入荷状況も店の売上も低調であった。時化が多く、魚の種類も少ない。カツオが獲れなくなっており、生イカも期待できない。
青果小売業界	初旬は、キャベツ、白菜、大根、人参等が高値で推移した。中旬以降は落ち着いたが、梅雨入りが遅れ雨不足で葉物全般の成育が悪く、入荷量が激減し、仕入価格が3~5割高で高騰し、利益の取れない状況であった。果物はさくらんぼの時季で売上が見込めるはずだが、春先の産地の天候不順とふるさと納税や産地直送等で市場入荷量が例年より少なく、売上増加に繋がらなかった。他の夏果物も価格が強い持ち合いで推移している。青果小売業界は長期にわたり売上低迷・利益薄が続いている。少子高齢化や惣菜加工品等で中食への消費シフトは、業界の生き残りに今後とも大きな影響を及ぼしていくと感じてい

	る。
家電小売業界	梅雨に入り全国的に悪天候が続いている中、ボーナス商戦が本格化し、大型白物家電や大型の有機 EL テレビが良く売れている。エアコンは昨年は猛暑の影響で取付工事に時間がかかり、購入を諦めたという声もあったが、今年は購入が早く、既に土日の工事はほぼ埋まっている。また、省エネ性を提案している空気清浄機や扇風機等は、複数台購入している人が多い。10月の消費税増税による駆け込み需要が始まっている。
石油小売業界	米中貿易摩擦の長期化に加え、トランプ政権のイランへの攻撃検討に伴う中東情勢の緊迫化により、国内の石油製品は、小売価格にその影響が反映され、価格が値上がりすると予測される。
花卉小売業界	当月の売上については、前年同月比で 86.6%と前年を大きく下回った。5月の10連休以降、売上不振が続いていたが、これは全国的なものである。また、老後必要資金 2,000 万円報道の影響で、一般個人層を中心に購買意欲の低下、買い控え等、消費の活性化が見られない状況である。
商店街	<p>(仙台地区A商店街) 労働力不足が課題となっている。</p> <p>(仙台地区B商店街) 外国人観光客は中心部でほとんど見かけなくなった。一方で、仙台駅前やその周辺ではいくつかの外国人グループを見かけるようになった。</p> <p>(大崎地区A商店街) 梅雨の長雨と10月に予定される消費税増税が、消費マインドを著しく削いでいる事を強く感じた1ヶ月間であった。特に大手スーパーなどに見られる食品の消費税増税を見越した価格の引き上げは、その厳しさが消費者に実感として届いており、商店街へも、大きな影響を及ぼしている。</p>
クリーニング業界	異常気象のため、業界全体の景気は悪化している。今年度の後半に期待したい。
自動車整備業界	持込車検台数は 3.6%の増加と順調で、震災以降ほぼ予定の台数となった。ペダルのふみ違い等の事故が多く発生しているため、後付の安全装置等の問い合わせが増加している。新車販売は登録車(普通車) 0.9%、軽自動車 0.5%とそれぞれ減少し、3ヶ月振りに前年割れとなった。秋に控える消費税増税に向けた駆け込み需要の動きも乏しく、東京モーターショーに合わせて全面改装が予定されている車に期待

	<p>するところである。</p>
ソフトウェア業界	<p>自社の情報システムを自社の保有物で運用する「オンプレミス」から、外部のクラウドサービスやSaaS（Software as a Service＝外部にある必要な機能だけを利用できるサービス）を利用する「オフプレミス」への移行が、ここ2～3年で進んできている。一昔前はネットワークやインフラの能力制限もあり、リアルタイムの処理は不可能だったが、今ではサーバが何処にあらうと気にすることは無くなってきている。今後5G（第5世代移動通信システム）の広がりによっては益々加速すると思われる。我々も、そういった環境を最大限利用したシステムづくりをしないと淘汰される可能性がある。</p>
警備業界	<p>真夏の到来を感じるが、警備業界、現場で働く警備員にとっては辛い時期である。熱中症予防は年々重要になっており、熱中症対策飲料、冷気衣服・保冷ベストの開発、首周辺を冷やすネッククーラー等の商品が続々と誕生しているため、警備員にぜひ活用してもらいたい。</p>
湾岸旅客業界	<p>6月は例年通りに旅客数、売上とも前月比で減少した。前年同月は、土日の天候が概ね良好で、仙台で各種団体の全国大会が多く開催されたが、本年は、全国大会・イベントが少なく、天候不順もあったため、客数・売り上げともに減少した。</p>
シーリング業界	<p>売上、取引条件、収益状況や景況は、前月比、前年同月比で不変又は悪化のどちらか一方に業界として判断することは難しい。これは、ある程度出そろった官公庁、民間工事物件も消化しはじめ、受注内容も大中小様々で、事業所間のばらつきがある状況で、当月は降雨が続いていることも判断が難しい要因となっている。今後もこの事業所間のばらつきは変わらないと予測している。</p> <p>収益状況は、働き方改革の影響か、他産業に見劣りしない労働環境を確保するため、以前よりも労働時間は減る中、生産性を上げなければならない状況にある。労務費は時間外や休日出勤など対応せざる得なく、限りある現場予算の中で費用が高む傾向にある。休日を増やし、ライフワークバランスを整えることと同時に、賃金確保のため適正単価の交渉も非常に重要と考える。</p>
建設業界	<p>国においては、生産性向上や人材確保の観点から、工事・納期の平準化を進めるべく、各地方自体を含む発注機関等への浸透を図っている。特に本年度は宮城県等に会計検査が入ったこともあり、年度当初においては極端に工事発注が少なく手が空いている状況が続いている。震災復旧・復興事業も残り2年を切り、今後の安定的な仕事量の確保に大きな危機感を抱いている。</p>
硝子業界	<p>宮城県内の学校関係で、夏の暑さ対策として、各教室にクーラー設置が予算化された。6月頃から本格的に工事が進む中で、我々ガ</p>

	<p>ラス工事店にも窓に関わる仕事があり、「アルミパネル板」への取替工事が6月~8月まで各地域でピークを迎える状況である。今年度の予算で全ての学校への設置は難しいが、ここ数年で完了する予定であり、当組合のアルミパネルの販売需要は伸びてきているため、今後を期待したい。</p>
板金業界	<p>受注件数は、新築とリフォーム共に大手と地元建築会社では、大きな差があるようだ。</p>
タクシー業界	<p>実車率及び輸送収入は若干減少している。LPG価格が若干値下がりした。</p>
倉庫業界	<p>前月比の売上高は、若干減少している。品目別の入庫・出庫量は、金属製品、紙・パルプ、食料品で微増であるが、全体の荷動きとしては減少傾向にある。</p> <p>前年同月比の売上高は増加している。保管・荷役が微増である。品目別の入庫・出庫量は、農産物、金属製品、ゴム製品等で増加が見られ、全体としてはほぼ同程度である。</p>
不動産業界	<p>賃貸物件の空き部屋数増加に伴い、賃料や諸条件の調整局面を迎えている。</p>